

## データサイエンスの力で「腹膜透析」の普及拡大と新サービス開発を目指す情報提供サービスの拡充について

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志、以下「JDSC」）は、データサイエンスの力で「腹膜透析」の普及拡大と新サービス開発を目指すヘルスケア事業において、慢性腎臓病および人工透析治療を必要としている患者およびその家族が適切な情報にアクセスし、サポートを受けられるよう支援する医療情報サイト「慢性腎臓病のことなら！キド兄さん」を2024年8月19日に大幅更新し、情報提供サービスの拡充を行いました。

「UPGRADE JAPAN」をミッションに掲げる JDSC は、全ての人が日本に生まれたからには、心身ともに健康で天寿を全うし、社会的な存在にいられるようにしたいと考えています。全ての患者に腹膜透析が適切ではなく、血液透析が適する場合もあるものの、臓疾患も持つ患者やその家族に、通院回数や身体的負担の少なさなど血液透析と比べて利点が多くある腹膜透析という選択肢を提示し、治療方法の決定の一助となるべく、2024年5月に「キド兄さん」を公開しました。開設以降、記事「専門家にきいてみよう」の掲載やコラム「腎臓あれこれ」の定期更新を行い、慢性腎臓病および人工透析治療を必要としている患者およびその家族への情報発信を行い、多くの関係者から好評を得るなか、さらなる有益な情報を提供するため、このたび掲載施設情報を大幅に更新しました。

慢性腎臓病のことなら/  
**キド兄さん**

目次  
ホーム

- 腎臓と腎臓病のこと
  - 腎臓のはたらき
  - 慢性腎臓病って？
- 腎臓病の治療について
  - 生活の改善
  - 薬物療法
  - 透析
  - 腹膜透析
  - 血液透析
  - 腎移植
- 専門家にきいてみよう
- 腎臓あれこれ（コラム）

検索できる/  
病院をさがす

腎臓病についての相談ができた、治療を受けられる病院を、対応できる治療法などと一緒に紹介します。ぜひご参考してください。

ホーム > 病院を探す > 東京都 > 東京都済生会中央病院

⚠️ 病院を受診される際は、事前に医療機関に連絡の上、内容をご確認ください。

東京都済生会中央病院

住所	〒108-0073 東京都港区三田 1-4-17
最寄駅	田町
電話	03-3451-8211
ホームページ	<a href="http://www.saichu.jp/">http://www.saichu.jp/</a> ※クリックすると別ウインドウが開きます。

対応可能な治療	薬物治療	血液透析	腹膜透析	腎移植
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

透析患者収容可能人数 80人  
腹膜透析の症例数 35人（2023年）

患者さんへ

急に悪くなった腎臓は早期治療により改善することがありますが、徐々に悪くなった腎臓は残念ながら現時点では著明に改善することは難しく、進行抑制が主体となります。そのため腎臓病は悪くなる前の早期からの適切な治療介入が重要となります。腎臓が悪くなると他の臓器が悪くなり、他の臓器が悪くなると腎臓が悪くなるというように、腎臓は多くの臓器と密接に関連しています。腎臓を守ることでより全身を守ることを心掛けて診療いたします。

「キド兄さん」では、全国の人工透析設備を保有する医療施設を検索できるデータベースを提供し、患者が自分の通いやすい場所で、自分に合った治療施設や専門医を見つけやすくすることを目指しています。中でも、腹膜透析の普及に賛同する医療機関を優先的に表示し、より深化した情報発信を行えるよう、今回のリニューアルでは、施設情報検索における優先表示や施設ページの情報のリッチ化を行いました。

この取り組みにおける第一弾の医療機関として、東京都済生会中央病院の医師へ独自取材を行い、透析や施設に関するより深い情報提供に加え、透析患者収容可能人数や腹膜透析の2023年の症例数実績、医療機関から患者へのメッセージなども掲載しました。今後も賛同医療機関情報の拡大に努めていきます。

### 3. 専門家に聞いてみよう

#### 腎臓病の原因は？腎臓病予防のための生活習慣とは

監修

東京都済生会中央病院 腎臓内科 医長

小松 素明 先生

2024/6/18



ホーム > 専門家に聞いてみよう > 腎臓病の原因は？腎臓病予防のための生活習慣とは

腎臓病（特に慢性腎臓病）は初期症状がなく、気がついた時には症状が進行している可能性のある、注意すべき疾患のひとつです。そこで本記事では、腎臓病の原因やリスク因子となる生活習慣や、腎臓病予防のために心がけるべき具体的な方法を、分かりやすく解説します。

腎臓病の原因が知りたいという方や、腎臓病について詳しい知識を学びたいという方は、ぜひ最後までご覧下さい。

#### 1. そもそも腎臓病とは？

腎臓病は、腎臓の機能に何らかの異常が起こり、腎機能が低下することに起因する、様々な全身症状が出現する病気（疾患）の総称です。

腎臓病には様々な種類があり、急性腎炎や腎盂腎炎などの「急性腎障害」の他、長期間にわたって腎機能が徐々に低下していく、慢性腎臓病（CKD）とよばれる病態も存在します。

CKDを発症すると、高血圧や貧血、骨粗鬆症などの合併症も生じやすくなり、生活の質（QOL）が著しく低下する要因となります。

AI とデータサイエンスを活用し、個社のみならず産業全体の課題解決を行う JDSC は、これまでもヘルスケア業界における課題解決に取り組んできました。そのひとつに、2021年7月に中部電力株式会社と設立した、産官学の連携でフレイルの予防改善モデルの構築および社会実装を目指す「フレイル対策コンソーシアム」がありますが、現在では広く使われている「フレイル」という言葉が一般化する以前から、コンソーシアムの組成によって、電力データ等を用いた早期発見・早期予防など複数の取り組みを推進するとともに、認知拡大にも寄与してきました。

現在、国内では認知の低い「腹膜透析」においても、JDSC はコンソーシアムの発想や所有する知見や技術を活用し認知向上に努めるとともに、透析の選択肢の一つとして一般化させることに貢献します。また、キド兄さんのトラフィックデータを活用し、地域別の患者統計データの作成およびデータサイエンスを活用した新サービスの開発を目指していきます。JDSC は今後も蓄積されたデータサイエンスの知見を基に、AI や機械学習、数理最適化などの先端技術を社会実装することで、産学官や業界を問わず課題解決を推進し、日本のアップグレードを目指していきます。

以上

#### ■ 「慢性腎臓病のことなら！キド兄さん」 (<https://kidney3.com>) について

当サイトでは、英語で腎臓を示す「Kidney（キドニー）」から命名した「キド兄さん」がナビゲーターとなり、慢性腎臓病および人工透析治療を必要としている患者およびその家族が適切な情報にアクセスし、サポートを受けられるよう支援します。JDSC は、「キド兄さん」を通じて血液透析に比べて通院回数や身体的負担の少なさなど利点が多い腹膜透析の認知拡大に努めるとともに、トラフィックデータを活用し、地域別の患者統計データの作成およびデータサイエンスを活用した新サービスの開発を目指します。

## ■腹膜透析の背景と課題

医療活動における治療方法や処方決定は、海外では患者の状態に合わせて決定されることが一般的である一方、日本では経済性や効率性といった医療経済が優先される傾向があります。このような環境の中、慢性腎臓病の透析医療に関しても国内では血液透析が主流であり、腹膜透析の普及に遅れが生じています。

米国の慢性腎臓病および末期腎不全に関する情報を収集、分析、配信する国家データベース「United States Renal Data System」の年次報告によると、日本の末期腎不全罹患率の高さは世界で9番目であり、有病率では2位に位置しているにも関わらず、透析患者全体（腎移植を含めない）に占める腹膜透析患者の割合は2.9%とワースト3位を記録し、普及率の高い香港（69%）やメキシコ（35～46%）、ニュージーランド（30%）などと比較すると、普及の遅れが際立っています。

このような状況に対して、厚生労働省は2020年および2022年度の診療報酬改定で腹膜透析の点数を高め、普及促進を図っていますが、腹膜透析の割合ははまだ海外のレベルには達していません。これらの要因には、腹膜透析を実施できる医療機関の数が限られていることも一因ではあるものの、腹膜透析そのものの認知の低さが大きな原因であると推測されます。

## ■株式会社 JDSC について <https://jdsc.ai/>

JDSC は、物流最適化や需要予測、フレイル検知や教育など、基幹産業を中心とした幅広い分野で、一気通貫型の高付加価値な AI ソリューションを提供しています。アルゴリズムモジュールの開発とライセンス提供事業、IT システムの開発と運用事業、データサイエンスに関するビジネスマネジメント事業を行い、業界全体の課題解決に AI を活用し、日本の産業のアップグレードを目指しています。

### 《JDSC の 3 つの特長》

1. AI アルゴリズムに関する技術面での豊富な知見
2. AI による解決策の提示から実行まで一気通貫で支援するビジネス面での高い執行能力
3. 大手企業との共同開発と産業横展開を両立する生産性の高いビジネスモデル

## 【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当 [info@jdsc.ai](mailto:info@jdsc.ai)